



# ごりようかく

文責:長澤永子(教頭) Tel0267-82-2331

## ◆3学期が始まりました!◆

冬休みが終了し3学期がスタートして3週間。学校は子どもたちの生き生きとした姿が各所で見られますが、感染力の強いオミクロンが猛威を振るい、日本全国各県で感染者の拡大で大変困惑しています。

3学期のスタートの頃はレベル4でしたので、縮小して10分間の始業式を行いました。全校で顔を合わせ、3学期のスタートの気持ちを整えました。しかし、その後は、感染レベルが5になり、27日には長野県に「まん延防止等重点措置」が出されました。昨日は「まん延防止等重点措置」に伴う対応とお願いについて別紙にて通知いたしました。重複しますが、これまで以上に感染予防対策を強化し下記の点について再度お願いします。保護者の皆様にもご理解ご協力をお願いします。

- ・今まで以上に健康観察をしっかりと行う。◇各ご家庭での健康チェックをお願いします。
- ・体調が優れない場合は無理をさせず、ゆっくりと休ませてください。また、登校してから体調が優れない場合は早帰りをします。ご協力お願いします。児童及び同居するご家族に、かぜ症状・発熱がある場合は速やかに学校へご連絡ください。また、濃厚接触者としての指定、感染症にかかわる検査を受けられる場合も速やかに学校(教頭)までご連絡ください。
- ・教室内の換気及び循環をしっかりと行います。(サーキュレーター等を使用)
- ・正しいマスクの着用、小まめな手指消毒、3密をさけるなど、感染予防の基本を再確認し徹底をします。給食は黙食で行っています。
- ・感染症対策を講じてもなお感染リスクの高い学習活動は行わないこととします。  
(長時間近距離で対面形式となるグループワーク、近距離で一斉に大きな声を出す話す活動、近距離で活動する実験・観察・共同制作、調理活動、合唱、リコーダー鍵盤ハーモニカ、密集・接触する運動等)また、実験や図工の制作活動などは少人数で学習ができるよう校内において分散型学習の方法をとっていきます。
- ・不要不急の外出は避ける行動と実践をお願いします。

休み明けの各教室の廊下には、子どもたちの力作がたくさんです。田口小の子どもたちは習字がとても上手です!



## ◆今後の行事について◆

「まん延防止等重点措置」が適応されたことにより、2月に行われる行事について下記のように中止、延期をいたします。延期されての今後の状況により中止になる場合もあります。学校としては3月に行われる卒業式を無事に行われる事を切願しております。

### <1・2月の行事>

行 事	年度当初の予定	今後の予定
CS 推進委員会	1月24日(月)	(延期)2月24日(木)
6年 社会見学	1月28日(金)	(延期)2月22日(火)
5年 夢プロジェクト	1月28日(金)	(延期)3月1日(火)
PTA評議委員会	2月4日(金)	(延期)未定
立ち会い演説会・投票	2月2日(水)	やり方を変えて行う
3・4年 参観日	2月8日(火)	中止
3年社会見学	2月10日(木)	(延期)3月2日(水)
スキー教室	2月16日(水)	中止
1・2年 参観日	2月17日(木)	中止
5・6年 参観日	2月25日(金)	中止

※この他、に閉校記念関係の会議を中止しています。

「まん延防止等重点措置」が終了したところで計画し、行います。



## ◆3学期の始業式<校長先生の話>

令和4年の初めでもあり、3学期の始業式でもあるので、**「継続は力なり」**に関する昔話を紹介したいと思います。

その昔話の題名は、「鬼彦兵衛」といいます。

おはなしをききながら、自分は他人に親切にできるかな？ 苦しい時にすぐあきらめたりしないかな？ そんなことを考えて聞いてください。

昔々、あるところに彦兵衛という子がいました。体が大きくなって見た目にも強そうです。ですが、本当は心優しい子で、いじめられても、馬鹿にされても、腹を立てることに遊んでいました。力も弱くて、他の子と相撲を取っても、すぐにごろんと転がされてしまいます。心が優しく、力の弱い彦兵衛が大人になりかけたころのある日、ひどい地震で山の大きな石が崩れ落ち、村のお宮を押しつぶしてしまいました。

村の人みんなが集まって、押したり引いたりしても、びくともしません。そこへ、一人旅の旅人が通りかかりました。わしが、その石を除いて進ぜよう。」といったかと思うと、ひよいと手をかけ、軽々とその石を動かしてしまいました。みんなは驚いてしまいました。ぼかんと口を開いているばかりです。ところが、彦兵衛はみんなと違いました。自分もせめてこの人の半分の力でも着いたら、人が困っているところへ行くわしたとき、人助けや手伝いができるのに。」と考えていたのです。そして、旅人に尋ねました。おらあ、体はでかいが力が出ない。家や村の仕事、人の仕事を何か手伝おうと思っても、力がなくて無理だ。どうやったらあなたみたいに力がつくのか、教えてもらえませんか。」

旅人は、向こうに羽黒山という山がある。そこでは、たくさん修験者が、いろいろな修行をしている。わしもその修業を積んだ者だ。その修業とは、夏も冬も険しい山道をはだして上がったり下がったり、滝に打たれて念じたり、火の上を歩いたりする。それはそれは苦しい修行だ。百人に九十九人は途中でやめていくほど厳しいものだ。」と教えてくれました。彦兵衛は、力が強くなったら、困っている人を助けてあげられる。家のため、村のために手伝うことができる。」早速親に頼んで羽黒山に修行に行きました。しぶきの凍る真冬にも滝に打たれ、ギラギラ日の照り付ける真夏にも山の上下りをしました。しかも、重い荷物を担いで。毎日毎日修行を休むことは一度もありませんでした。十年が過ぎたある日、神様が彦兵衛の夢に現れ、よく努力をした。三千六百五十日の修行に耐えたお前に百人力を与える。」と言って夢から覚めました。彦兵衛は、これで俺も村のために働ける。」と喜び、急いで村に帰っていききました。

村に帰った彦兵衛は、川に大水が出ると土囊をどんどん積み重ねて洪水を防ぎました。馬車が溝にはまって困っている人を見れば、片手でひよいと馬車を引き上げ、家まで届けてくれる。秋には、何十俵もの米俵を一度に運ぶ。火事の時は、ふる湯船で水をかけ、いっぺんに火を消してしまふ。村ごとの争いごとが起きて彦兵衛が間に入ればけんかも自然と収まりました。やがて、人々に「鬼彦兵衛、鬼彦兵衛。」と言われるようになりました。ここでいう「鬼」とは、特別な力を持った人、スーパーマンというような意味です。

今日のお話は、やさしい心の持ち主彦兵衛が、厳しい修行でウルトラパワーを身に付けて村の人を助けたというお話でした。

力があっても、人のために使えない力、人をいじめるために使われる力では意味がありません。3学期は、鬼彦兵衛のように、人を思いやる優しい心や、人を助けられる知恵と力を身に付けていくようにして欲しいと思います。